

フェイクニュースとどう向き合うか

— メディアの現場と社会科学・情報科学の対話 —

インターネットが普及し始めたとき、人々はそれが「情報を民主化する」ことに大きな期待をかけた。しかし現在、人々はフェイクニュースに翻弄され、フィルターバブルとエコーチェンバーの中で偏った情報・意見に浸ったり、ヘイトスピーチを拡散したりしている。多様な価値観を持った人々が、事実に基づいて、互いを尊重しながら議論ができることが健全な民主主義社会の基盤である。しかし現在、インターネットはむしろその基盤を脅かしているようにも見える。フェイクニュースに代表される、インターネット上に流通する粗悪な情報の問題の要因は複雑である。その正確な理解と適切な対策のためにはインターネットメディアやプラットフォーム、そこを拡散する誤情報やそれを処理する人間の心の仕組みについて、多様なアプローチから研究すること、そしてその知見を共有し統合することが必要だろう。本シンポジウムでは、多様な分野の専門家を招いて、フェイクニュースなどの問題についての現状の理解・分析と、今後の展望と対策について、知見を共有し議論を行なう場を提供したい。

PROGRAM ※時間は目安です。進行状況により若干前後することがあります。

開会のご挨拶 10:30-10:40

■ 村上祐子 哲学・倫理学、立教大学

本シンポジウムの開催趣旨 10:40-10:50

■ 久木田水生 情報哲学、名古屋大学

Session 1 10:50-12:10

メディアの現場から

■ 平和博 朝日新聞社

■ 藤村厚夫 SmartNews、FactCheck Initiative Japan

Short Break 14:20-14:40

Session 3 14:40-16:40

フェイクニュースへの対策

■ 鈴木秀美 メディア法、慶応義塾大学

■ 乾健太郎 自然言語処理、東北大学

■ 奥村晴彦 情報教育学、三重大学

Short Break 16:40-16:50

Session 4 16:50-17:50

ディスカッション

総括とコメント 17:50-18:00

■ 中村登志哉 国際関係論、名古屋大学

閉会のご挨拶 18:00

■ 林秀弥 メディア法、名古屋大学

Lunch Break 12:10-13:00

Session 2 13:00-14:20

フェイクニュースの科学的分析

■ 笹原和俊 計算社会科学、名古屋大学

■ 高史明 社会心理学、神奈川大学

2019年 **3月31日(日)**

開場 10:00 開会 10:30

会場 立教大学池袋キャンパス
太刀川記念館

参加無料

主催 立教大学理学部
名古屋大学アジア共創教育研究機構

お問合せ 久木田水生 minao.kukita@i.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学情報学研究科附属
グローバルメディア研究センター

事前登録 にご協力を
お願いします

ご登録いただいた方は席を確保
いたします(空席があれば登録
なしでもご参加いただけます)



QRコードもしくは下記ページにアクセス下さい
<https://goo.gl/forms/zOGgA7osg4dCLfZG3>